

令和6年度事業報告

令和6年度、一般社団法人持続可能社会推進コンサルタント協会（以下、「協会」と言う。）の役員、職員及び各部会委員等は、定款及び諸規則等に従い適正に協会の運営管理を行うとともに、令和6年度事業計画に基づき、第四期将来ビジョンの推進、調査研究、人材育成、技術の普及啓発、対外活動及び国際協力等に係る事業を実施した。

令和6年度においても引き続き、総会、理事会、各部会セミナー等を対面・Web 併用による開催したことにより、従来実質的に参加が困難な場合が多かった会員にとっては、時間的或いは場所的な制約条件が大幅に緩和されたため、従前に比べ多くの参加者があった。このことから、様々な手法を用いた協会活動の可能性が明らかになり、今後の協会活動のあり方を考える上でも、示唆に富んだ経験であったと考えられる。

協会名を「持続可能社会推進コンサルタント協会」に変更したことによる従来の廃棄物関連から「循環型社会」・「脱炭素社会」・「自然共生社会」に係る活動の多様化のため、技術部会に関連する3つの委員会を設置し、活動が緒に就いたところである。

また、環境省の政策である「地域循環共生圏」及び「脱炭素先行地域」に関しては、広報誌（会報）において、会員をはじめ各界の第一線で活躍する専門家や先進自治体における様々な取り組みに関する情報発信を行った。

気候変動に伴う激甚な自然災害の頻発は近年一層顕著になっており、災害廃棄物の問題が大きな社会問題となっている。環境省からの依頼に基づき協会としてD.Waste-Netの一員として、甚大な被害をもたらした令和6年度「令和6年9月20日からの大雨」の被災地である能登半島・輪島市について、環境省からの依頼に基づき協会としてD.Waste-Netの一員として、技術者を派遣した。

令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震に関しても、協会として令和6年1月1日の地震発生直後から活動を開始し、令和6年度も引き続き現地に技術者を派遣した。

わが国の国土基盤に大きく関係する災害の頻発や人口減少が継続するなど、社会経済状況が大きく変化していくなかで、様々な知の分野の環境問題に直面する複雑な時代のなかで、協会としても、いかなる形で社会に貢献していくかを考える上で、重要な時期であると考えられる。

以下、令和6年度事業の実施状況について報告する。

1. 協会の運営管理

(1) 総会

①第13回 定時総会

日 時	令和6年度5月22日(水)
議 案	令和5年度事業報告について 令和5年度決算及び監査報告について 役員を選任について
報 告	令和6年度事業計画について 令和6年度予算について
協会表彰	功績賞 ・「令和5年7月15日からの大雨」D-Waste-Net 派遣 : 46名 ・「令和5年台風第13号」D-Waste-Net 派遣 : 16名 ・「令和6年能登半島地震」D-Waste-Net 派遣 : 176名 ・令和5年度技術セミナー・技術者研修講座議事進行 : 5名 ・令和5年度技術士(第2次)試験受験のための講習会講師 : 1名 ・独立行政法人国際協力機構(JICA)研修における講師 : 1名 ・国際セミナー運営 : 3名

(2) 監事監査

日 時 令和6年度5月7日

監査結果については第13回定時総会において報告

(3) 理事会

①第24回理事会

日 時	令和6年度5月7日(火)
議 案	令和5年度事業報告について 令和5年度決算及び監査報告について 役員を選任について 第13回定時総会の開催について 令和6年度表彰について

②第25回理事会

日 時	令和7年2月5日(水)
議 案	令和7年度における会費区分について 令和7年度事業計画について 令和7年度予算について

(4) 部会

① 総務部会

第1回 令和6年度4月25日(木)

令和5年度事業報告について

令和5年度決算及び監査報告について

役員を選任について

令和6年度表彰について

会報について 等

第2回 令和7年1月27日(月)

令和7年度の会費区分について

令和7年度事業計画及び予算について

会報について

第14回定時総会について 等

(5) 表彰審査会

令和6年度4月22日(金)

(6) 表 彰

○会長表彰

第13回定時総会(令6年5月22日)において、会長から賞状と記念品を贈呈した。

① 功績賞(技術部会)

「令和5年7月15日からの大雨」D-Weste-Net 派遣

菅 一佳(株式会社エイト日本技術開発)

高橋 瑞穂(株式会社エイト日本技術開発)

高橋 宏義(株式会社エイト日本技術開発)

神野 公作(株式会社エイト日本技術開発)

籠谷 純一(株式会社エイト日本技術開発)

中川 秀利(株式会社エイト日本技術開発)

宮脇 岳雄(株式会社エイト日本技術開発)

松井 一弘(株式会社エイト日本技術開発)

大城 琢磨(株式会社エイト日本技術開発)

佐藤 柊也(株式会社エイト日本技術開発)

比嘉 宣仁(株式会社エイト日本技術開発)

中石 一弘(株式会社エックス都市研究所)

西村 想(株式会社エックス都市研究所)

亀井 千亜紀(応用地質株式会社)

徐 子洋(応用地質株式会社)

小西 亮輔(株式会社環境管理センター)

八柳 就（株式会社環境管理センター）
糸賀 悠里香（株式会社建設技術研究所）
武田 夏泉（株式会社建設技術研究所）
松岡 巨恒（中外テクノス株式会社）
松尾 仁（中外テクノス株式会社）
小幡 和彦（株式会社ドーコン）
津田 裕介（株式会社ドーコン）
坂本 仁（株式会社ドーコン）
菊地 航大（株式会社ドーコン）
小森 一太（株式会社東和テクノロジー）
池本 久利（日本工営株式会社）
野末 浩佑（パシフィックコンサルタンツ株式会社）
大木 高志（株式会社復建技術コンサルタント）
進藤 秀（株式会社復建技術コンサルタント）
佐藤 一郎（株式会社復建技術コンサルタント）
内野 弘章（八千代エンジニアリング株式会社）
小林 健一（八千代エンジニアリング株式会社）
山中 千賀子（八千代エンジニアリング株式会社）
杉山 智春（八千代エンジニアリング株式会社）
関口 諒太（八千代エンジニアリング株式会社）
岡田 太郎（八千代エンジニアリング株式会社）
渋谷 正樹（八千代エンジニアリング株式会社）
堀田 真也（八千代エンジニアリング株式会社）
丸山 智也（八千代エンジニアリング株式会社）
國安 弘幸（八千代エンジニアリング株式会社）
森定 真健（八千代エンジニアリング株式会社）
河津 弘幸（八千代エンジニアリング株式会社）
金友 舞香（八千代エンジニアリング株式会社）
小林 栄己（八千代エンジニアリング株式会社）
筒井 僚子（株式会社四電技術コンサルタント）

② 功績賞（技術部会）

「令和5年台風第13号」D.Waste-Net 派遣

岩邊 壮真（株式会社エイト日本技術開発）
衛藤 学（株式会社エイト日本技術開発）
渡邊 唯亜（株式会社エイト日本技術開発）
島宗 敬太郎（株式会社エイト日本技術開発）

伊藤 孝（株式会社環境技研コンサルタント）
眞山 智之（株式会社環境技研コンサルタント）

石田 佳子 (株式会社環境技研コンサルタント)
中川 雄貴 (株式会社環境技研コンサルタント)
松本 祐太 (株式会社環境技研コンサルタント)
宮崎 啓介 (株式会社環境施設コンサルタント)
権田 恭平 (株式会社建設技術研究所)
秋朝 玲香 (株式会社建設技術研究所)
國安 弘幸 (八千代エンジニアリング株式会社)
金友 舞香 (八千代エンジニアリング株式会社)
堀田 真也 (八千代エンジニアリング株式会社)
関口 諒太 (八千代エンジニアリング株式会社)

③ 功績賞 (技術部会)

「令和6年能登半島地震」D-Weste-Net 派
環境本省派遣

内山 俊 (いであ株式会社)
深谷 史子 (いであ株式会社)
山崎 萌香 (株式会社エイト日本技術開発)
川口 真一 (株式会社 NJS)
宇野 賢志 (応用地質株式会社)
新島 宏平 (株式会社オオバ)
櫻井 日向子 (株式会社環境管理センター)
川本 真寛 (国際航業株式会社)
鈴木 一彦 (国際航業株式会社)
河野 海 (国際航業株式会社)
山崎 悠介 (中外テクノス株式会社)
高部 裕介 (株式会社日建設計)
長島 淳 (株式会社日建設計)
相沢 俊彦 (八千代エンジニアリング株式会社)
山中 千賀子 (八千代エンジニアリング株式会社)

能登半島派遣

竹内 千尋 (株式会社エイト日本技術開発)
神谷 敦史 (株式会社エイト日本技術開発)
伊藤 聡 (株式会社エイト日本技術開発)
上杉 智洋 (株式会社エイト日本技術開発)
島宗 敬太郎 (株式会社エイト日本技術開発)
岩邊 壮真 (株式会社エイト日本技術開発)
渡邊 唯亜 (株式会社エイト日本技術開発)
菅 一佳 (株式会社エイト日本技術開発)
穴吹 凌 (株式会社エイト日本技術開発)
王 媚 (株式会社エイト日本技術開発)

山崎 萌香 (株式会社エイト日本技術開発)
平山 涼一 (株式会社エイト日本技術開発)
築場 則昭 (株式会社エイト日本技術開発)
勝見 慧 (株式会社エイト日本技術開発)
増原 碩之 (株式会社エイト日本技術開発)
服部 一紘 (株式会社エイト日本技術開発)
衛藤 学 (株式会社エイト日本技術開発)
宮澤 俊介 (株式会社エイト日本技術開発)
楊 継東 (株式会社エイト日本技術開発)
吉田 友之 (株式会社エイト日本技術開発)
佐竹 佑太 (株式会社エイト日本技術開発)
川杉 倫加 (株式会社エイト日本技術開発)
長尾 竜二 (株式会社エイト日本技術開発)
衛藤 学 (株式会社エイト日本技術開発)
福島 孝亮 (株式会社エイト日本技術開発)
長谷山 朗 (株式会社エックス都市研究所)
鈴木 修 (株式会社エックス都市研究所)
中石 一弘 (株式会社エックス都市研究所)
松田 敏明 (株式会社エックス都市研究所)
小日向 隆 (株式会社エックス都市研究所)
臼井 直人 (株式会社エックス都市研究所)
吉川 克彦 (株式会社エックス都市研究所)
秦 三和子 (株式会社エックス都市研究所)
坂田 幸久 (株式会社エックス都市研究所)
松島 祐樹 (株式会社エックス都市研究所)
岩崎 飛竜 (株式会社エックス都市研究所)
霧巻 峰夫 (株式会社エックス都市研究所)
西村 富男 (株式会社エックス都市研究所)
高橋 輝希 (株式会社 NJS)
森 智志 (株式会社 NJS)
望月 海人 (株式会社 NJS)
渡邊 仁史 (株式会社 NJS)
亀井 千亜紀 (応用地質株式会社)
徐 子洋 (応用地質株式会社)
田中 良郎 (応用地質株式会社)
播磨 さおり (応用地質株式会社)
塚本 真理佳 (応用地質株式会社)
杉山 真菜 (応用地質株式会社)
安庭 晶子 (応用地質株式会社)
手島 洋紀 (応用地質株式会社)
佐々木 基 (株式会社オオバ)

吉田 勇輝 (株式会社オオバ)
豊口 敏之 (株式会社環境管理センター)
塩野 拓海 (株式会社環境管理センター)
長谷川 亮 (株式会社環境管理センター)
秋山 裕昭 (株式会社環境管理センター)
加藤 祐一朗 (株式会社環境管理センター)
小西 亮輔 (株式会社環境管理センター)
吉澤 洋志 (株式会社環境管理センター)
田中 研一郎 (株式会社環境管理センター)
伊藤 秀樹 (株式会社環境技術センター)
宮崎 啓介 (株式会社環境施設コンサルタント)
津田 佐代子 (株式会社環境施設コンサルタント)
土井 美千絵 (株式会社環境施設コンサルタント)
古田 秀雄 (株式会社建設技術研究所)
山田 若菜 (株式会社建設技術研究所)
糸賀 悠里香 (株式会社建設技術研究所)
武田 夏泉 (株式会社建設技術研究所)
森下 講平 (株式会社建設技術研究所)
岸元 篤史 (株式会社建設技術研究所)
能美 大希 (株式会社建設技術研究所)
北村 亮輔 (株式会社建設技術研究所)
垣野 泰斗 (株式会社建設技術研究所)
権田 恭平 (株式会社建設技術研究所)
青木 裕子 (国際航業株式会社)
岡田 敬志 (国際航業株式会社)
高橋 航 (国際航業株式会社)
川村 功一 (国際航業株式会社)
齋藤 伴哉 (国際航業株式会社)
坂井 友里江 (国際航業株式会社)
紅露 美咲 (国際航業株式会社)
今林 正樹 (国際航業株式会社)
大宮 恭平 (国際航業株式会社)
佐伯 敬 (株式会社東和テクノロジー)
大畑 ゆき (株式会社東和テクノロジー)
松岡 巨恒 (中外テクノス株式会社)
松尾 仁 (中外テクノス株式会社)
相原 有希 (中外テクノス株式会社)
竹本 純太 (中外テクノス株式会社)
十二町 真二 (株式会社中部設計)
田中 充 (中日本建設コンサルタント株式会社)
雷 曦 (中日本建設コンサルタント株式会社)

鉤 佐登志 (中日本建設コンサルタント株式会社)
佐伯 茂雄 (中日本建設コンサルタント株式会社)
池本 久利 (日本工営株式会社)
庄司 茂幸 (日本工営株式会社)
東中川 敏 (日本工営株式会社)
牛島 大志 (日本工営株式会社)
加藤 靖広 (日本工営株式会社)
阿部 勉 (日本工営株式会社)
鄭 呂尚 (日本工営株式会社)
松山 賢一 (日本工営株式会社)
小島 淳 (日本工営株式会社)
石渡 悠介 (日本工営株式会社)
菅林 恵太 (日本工営株式会社)
佐藤 夕夏 (日本工営株式会社)
梁 有希 (日本工営株式会社)
城本 太郎 (日本工営株式会社)
小川 慎之亮 (日本工営株式会社)
西川 隆清 (日本工営株式会社)
片山 仁志 (日本工営株式会社)
木村 恭子 (日本工営株式会社)
田川 裕章 (日本工営株式会社)
間瀬 皓介 (日本工営株式会社)
長沼 研午 (日本工営株式会社)
中川原 宏明 (日本工営株式会社)
田邊 智章 (日本工営株式会社)
角田 一樹 (日本工営株式会社)
天野 雪菜 (日本工営株式会社)
小林 香織 (日本工営株式会社)
細野 智之 (日本工営株式会社)
齊藤 啓輔 (日本工営株式会社)
真鍋 毅 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)
枝澤 圭祐 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)
道浦 貴大 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)
吉井 智史 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)
井手 康平 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)
杉原 大夢 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)
西川 昌秀 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)
上田 淳也 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)
川添 優 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)
中尾 剛 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)
野末 浩佑 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)

高橋 洸太 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)
宇佐見 貞彦 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)
叶 琢磨 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)
吉田 正輝 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)
鈴木 大輔 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)
大木 雄介 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)
三浦 拓徒 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)
濱野 好美 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)
小林 栄己 (八千代エンジニアリング株式会社)
工藤 友康 (八千代エンジニアリング株式会社)
熊谷 祐人 (八千代エンジニアリング株式会社)
小林 健一 (八千代エンジニアリング株式会社)
岡田 太郎 (八千代エンジニアリング株式会社)
竹田 善彦 (八千代エンジニアリング株式会社)
鈴木 龍登 (八千代エンジニアリング株式会社)
山中 千賀子 (八千代エンジニアリング株式会社)
小林 紀寛 (八千代エンジニアリング株式会社)
山川 正雄 (八千代エンジニアリング株式会社)
マダディアブドゥル ハレッド (八千代エンジニアリング株式会社)
近藤 和晃 (八千代エンジニアリング株式会社)
観音寺 里佳 (八千代エンジニアリング株式会社)
高橋 功 (八千代エンジニアリング株式会社)
高野 翔太 (八千代エンジニアリング株式会社)
姜 裕実 (八千代エンジニアリング株式会社)
國安 弘幸 (八千代エンジニアリング株式会社)
関口 諒太 (八千代エンジニアリング株式会社)
小林 健一 (八千代エンジニアリング株式会社)
丸山 智也 (八千代エンジニアリング株式会社)
津村 賢志 (八千代エンジニアリング株式会社)
筒井 僚子 (株式会社四電技術コンサルタント)
入福 恵 (株式会社四電技術コンサルタント)

④ 功績賞 (技術部会)

令和5年度技術セミナー・技術者研修講座議事進行

菅 一佳 (株式会社エイト日本技術開発)

森 智志 (株式会社 NJS)

前田 伊瑞実 (応用地質株式会社)

斉藤 文夫 (株式会社環境管理センター)

國安 弘幸 (八千代エンジニアリング株式会社功績賞 (

⑤ 功績賞（技術部会）

令和5年度技術士(第2次)試験受験のための講習会講師
前田 伊瑞実（応用地質株式会社）

⑥ 功績賞（国際部会）

独立行政法人国際協力機構（JICA）研修における講師
細野 智之（日本工営株式会社）

⑦ 功績賞（国際部会）

国際セミナー運営
伊藤 新（株式会社エックス都市研究所）
野口 一彦（中日本建設コンサルタント株式会社）
青木 裕子（国際航業株式会社）

○環境大臣表彰

協会が推薦した長谷川亮氏（株式会社環境管理センター）が、「令和6年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰（廃棄物・浄化槽研究開発功労者）」を受賞。

2. 調査研究の推進



(1) 技術部会に設置の委員会について

従前の廃棄物コンサルタント協会の基盤に立ちつつ、環境問題の多様化に対応した持続可能社会推進コンサルタント協会の技術的課題を解決していくため、技術部会に①「循環型社会委員会」、②「脱炭素社会委員会」及び③「自然共生社会委員会」を設置し、それぞれの委員会委員の募集を行い、令和5年度から勉強会を開始し、各委員会活動のポジションペーパーを作成することとした。

(2) 環境省受託事業

① 令和6年度特定一般廃棄物及び特定産業廃棄物の最終処分場の管理及び廃止に関する調査業務

- ・事業期間 令和6年10月20日～令和7年3月21日
- ・契約金額 15,400千円（消費税込み）
- ・業務概要 放射性物質により汚染された特定一般廃棄物及び特定産業廃棄物の最終処分場について、その実態を把握し技術的課題や改善点等を抽出し、長期的な管理手法を検討。

- ② 令和6年度「令和6年9月20日からの大雨」災害廃棄物処理支援業務
- ・事業期間 令和6年9月30日～令和7年2月28日
 - ・契約金額 31,064千円（消費税込み）
 - ・業務概要 令和6年9月20日からの大雨に係る災害廃棄物処理支援のために秋田市に会員会社の技術者を派遣。
- ③ 令和5年度「令和6年能登半島地震」災害廃棄物処理支援業務
- ・事業期間 令和6年1月5日～令和6年12月27日
 - ・契約金額 176,517千円（消費税込み）
 - ・業務概要 令和6年能登半島地震に係る災害廃棄物処理支援のために能登半島に会員会社の技術者を派遣。

3. 人材育成、技術の普及啓発の推進



(1) 技術士試験対策講習会

開催日時 令和6年度4月5日（金）15時～17時
 受講者 30名（協会会員会社29名、外部1名）
 講義 試験対策のポイント
 講師 太田垣 貴啓（応用地質(株)）

(2) 技術者セミナー

第1回

実施日時：令和6年9月30日（月）14時00分～15時30分（オンライン）

受講対象：協会会員（受講者数：約60名）

講義内容：DOWA エコシステムの環境事業について

講師：DOWA エコシステム株式会社 環境ソリューション室
吉村 雅仁 室長

第2回

実施日時：令和6年10月23日（水）13時30分～15時00分（オンライン）

受講対象：協会会員（受講者数：約60名）

講義内容：テトラパック サステナビリティの取り組み 脱炭素・循環型社会に向けて

講師：日本テトラパック株式会社 広報・ガバメントリレーションズ
柴田 充 氏

第3回

実施日時：令和6年11月6日（水）13時30分～15時00分（オンライン）

受講対象：協会会員（受講者数：約50名）

講義内容：脱炭素マルチプラットフォーム システムの側から見た
「あるべき姿」の参考-

講師：株式会社ムスビメ
石井 美也紀 取締役会長

第4回

実施日時：令和6年11月20日（水）13時30分～15時00分（オンライン）

受講対象：協会会員（受講者数：約70名）

講義内容：「フォグエンジニア」、霧の理論的な解説と事業展開、脱炭素への貢献等

講師：株式会社いけうち
中井 志郎 取締役 執行役員社長

第5回

実施日時：令和6年12月13日（金）13時30分～15時00分（オンライン）

受講対象：協会会員（受講者数：約70名）

講義内容：自然環境行政の最近の動向

講師：一般財団法人 自然環境研究センター
牛場 雅己 上席研究員（前 環境省 北海道環境事務所長）

第6回

実施日時：令和7年3月14日（金）13時30分～15時00分（オンライン）

受講対象：協会会員（受講者数：約70名）

講義内容：使用済み紙おむつを使用した助燃剤化

講師：株式会社クリタス

開発部 森 健一 氏

経営企画部 田中 智之 氏

(3) 技術者研修講座

第1回

実施日時：令和6年7月19日（金）13時30分～15時00分（オンライン） -

受講対象：協会会員（受講者数：約70名）

講義内容：再資源化事業等高度化法（資源循環の促進のための再資源化事業等の高度化に関する法律）について

講師：環境省環境再生・資源循環局 廃棄物規制課
山田 浩司 総括補佐

第2回

実施日時：令和6年7月24日（水）13時30分～15時00分（オンライン）

受講対象：協会会員（受講者数：約70名）

講義内容：廃棄物行政の最近の状況について

講師：環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物適正処理推進課
高橋 亮介 総括補佐

第3回

実施日時：令和6年7月26日（金）13時30分～15時00分（オンライン）

受講対象：協会会員（受講者数：約70名）

講義内容：災害廃棄物処理について

講師：環境省 環境再生・資源循環局 災害廃棄物対策室
鳥居 ほのか 災害廃棄物対策官

4. 対外活動の推進



(1) D. Waste- Net

「令和6年能登半島地震」災害廃棄物処理支援業務及び「令和6年9月20日からの大雨」災害廃棄物処理支援業務により能登半島に会員会社の技術者を派遣した。

(2) 関係機関、関係団体との連携

関係機関等への協力及び委員派遣等

- 一般社団法人廃棄物資源循環学会
評議員 森 孝信 会長 (株)エイト日本技術開発)
理事 袖野 玲子 理事 (芝浦工業大学)
- 一般社団法人廃棄物処理施設技術管理協会
環境技術会誌編集委員会
委員 森 智志 技術部会委員 (株N J S)
- 公益社団法人全国都市清掃会議
「都市清掃」編集委員会
委員 樋口 壯太郎 理事 (福岡大学名誉教授)
委員 島宗 敬太郎 (株式会社エイト日本技術開発)
委員 國安 弘幸 (八千代エンジニアリング株)
- 日本廃棄物団体連合会
監事 藤塚 哲朗 専務理事

5. 国際協力の推進



(1) 国際セミナー

一般社団法人海外環境協力センターOECC)との合同セミナー

【第13回 SuSPCA・OECC 合同セミナー】

「プラスチック汚染に関する国際条約策定に向けた国際交渉の舞台裏と今後の展望」

日 時：令和7年年2月28日(金)16時30分～18時00分(オンライン)

講演1：プラスチック汚染に関する法的拘束力のある国際文書策定に向けた
政府間委員会(INC)での交渉状況と今後の展望

講 師：小野 洋 環境省参与/INC 副議長・アジア太平洋地域代表理事

講演 2：プラスチック汚染に関する国際協力の今後の展望

講師：環境省水・大気環境局海洋環境課

中山 直樹 海洋プラスチック汚染対策室長

(2) 海外案件に関する受注高調査

国内受注高調査に合わせて、会員各社を対象にして令和 5 年度年度の海外案件に関する受注高調査を令和 6 年 4 月に実施し、その集計結果を会報 97 号（令和 7 年 3 月発行）に掲載。

6. 協会運営等に係る事業



(1) 廃棄物コンサルタント業務の発展・改善に関する活動（受注高調査）

会員各社を対象に令和 5 年度の国内受注高及び海外受注高についてアンケート調査を行い、その集計結果を、会報第 97 号（令和 7 年 3 月発行）に掲載。

(2) 会報その他印刷物の刊行、広報活動

① 会報の発行

令和 6 年 7 月に第 95 号、12 月に第 96 号、及び、令和 7 年 3 月に第 97 号（各 5,000 部）を製作し、全都道府県市区町村の循環型社会推進・脱炭素・自然共生担当部門、清掃一部事務組合、環境省、国立高等専門学校、関係機関及び会員に配布した。

第 86 号から環境省の政策である地域循環共生圏を特集シリーズとして掲載を開始し、第 95 号では「その 9」として『循環経済・サーキュラーエコノミー』を取り上げ、様々な主体の最新の取り組みについて情報発信を行った。

また、第 92 号から脱炭素に関する最新の情報を発信するため、環境省の政策である「脱炭素先行地域」の紹介を開始し、第 97 号では「脱炭素先行地域（第 5 回）」の紹介を特集した。

（巻末の参考を参照）

② 会員名簿の発行

「循環型社会」・「脱炭素社会」・「自然共生社会」の各分野に対応した 2024 年版会員名簿（印刷部数 5,000 部）を 7 月に発行し、全都道府県市区町村の循環型社会推進・脱炭素・自然共生担当部門、清掃一部事務組合、環境省、国立高等専門学校、関係機関及び会員に配布した。

③ホームページ

適時適切にホームページを更新するとともに、協会のイベント等の開催案内を掲載し、協会の活動状況を周知した。

(3) その他

① Web会議システムの導入

時間的場所的制約の緩和の点から事務局に Web 会議システム(Zoom)を導入し、各種会議・研修会等を効率的に開催している。

② 事務局活動のグリーン化等

事務局活動により排出される使用済みコピー用紙、包装用紙、段ボール箱及び新聞紙等に関して、「ちよだ・エコオフィス町内会」活動に参加し、資源循環に自らの取り組みを推進している。

事務局経費を一層削減し、もって財政状況の健全化を促進するため、毎日の様々な活動場面でリユース・リデュース等を心掛けるなどの意識づけを行っている。

会報・会員名簿等の封入・発送時に大量に発生する各種テープの「巻芯」に関して段ボールへの再生、各種植林へ貢献するため「第 15 回ニチバン巻芯 ECO プロジェクト」へ「巻芯」を送付し、感謝状が授与された。(感謝状は巻末に掲載)

③ 倫理の向上等に関する活動

不当要求による事業者及び使用人等の被害を防止するために、不当要求防止責任者講習を受講し、事務局に不当要求防止責任者（事務局員）を設置している。

参 考

第 95 号

目 次

I 巻頭言

鳥居 ほのか 環境省 環境再生・資源循環局

II 特集

地域循環共生圏（その9）『循環経済・サーキュラーエコノミー』

地域循環共生圏シリーズ（その9）

『循環経済・サーキュラーエコノミー』特集にあたって
中村 元紀（総務部会長）

- ① 循環経済の国際的な取り組みと日本の進むべき方向
中村 崇 一般社団法人循環経済協会
- ② 循環経済パートナーシップ（J4CE）の取組と今後の展望
近藤 亮太 環境省 環境再生・資源循環局
- ③ 資源循環技術のご紹介
- 廃プラスチックのガス化及びメタノール化 -
- 流動床炉における炉底砂からの貴金属回収 -
秩父 薫雅 株式会社神鋼環境ソリューション
- ④ 廃棄物の資源循環
森谷 賢
- ⑤ 飲料におけるサーキュラーエコノミー
- サーキュラーエコノミーのヒントを探る -
柴田 充
- ⑥ 脱炭素ビジョンにおけるバイオマス資源の戦略的な利活用
秦 三和子 株式会社エックス都市研究所
循環経済・サーキュラーエコノミー
- 株式会社N J Sの活動 -
森 智志 株式会社N J S

III 総会、理事会及び部会報告

IV 研究室紹介

Vol. 24 廃棄物の有効利用で地域に貢献する研究
宮崎大学 准教授 関戸 知雄

V 会員便り

Vol. 54 「自然共生サイト」の認定取得と「ネイチャーポジティブ」への貢献
金子 久美 応用地質株式会社

Vol. 55 廃棄物管理マスタープラン策定にあたっての
戦略的環境アセスメント（SEA）の実施
- スリランカ国西部州における廃棄物管理計画（マスタープラン）
策定支援プロジェクト -

VI 地域発信

- Vol. 43 神田周辺のご紹介
星田 正人 応用地質株式会社
- Vol. 44 名古屋の街歩き
伊藤 秀樹 株式会社環境技術センター

第 96 号

目 次

I 巻頭言

山田 浩司 環境省 環境再生・資源循環局

II 環境大臣表彰

株式会社環境管理センター 長谷川 亮

III イベント報告

IV 大学・研究室紹介

- Vol. 25 政策研究大学院大学 教授 高橋 一彰
- Vol. 26 宮崎大学大学院工学研究科 井上 優希

V 会員便り

- Vol. 56 AI 画像解析技術を用いた自然環境調査
菅 一佳 株式会社エイト日本技術開発
- Vol. 57 こども向け体験型環境学習の取り組み
～環境に携わる企業として伝えられるコト～
野中 衿花 株式会社環境管理センター
- Vol. 58 日本の技術を採用したベトナム初のごみの衛生埋立処分場
-10年以上に渡る設計・施工監理ハイフォン市の
廃棄物管理改善プロジェクト-
齋藤 正浩 八千代エンジニアリング株式会社
- Vol. 59 モザンビーク国マプト市廃棄物管理における財務持続性の確保に向けて
グレース・マルコ・ネプチューノ コンサルタント
細野 智之 日本工営株式会社

VI 地域発信

- Vol. 45 進化し続ける町 中野
山崎 萌香 株式会社エイト日本技術開発
- Vol. 46 魅力溢れる「横山町・馬喰町・東日本橋」地区
寺嶋 祐大 中外テクノス株式会社

第 97 号

目 次

I 巻頭言

環境省 地球環境局 岡野 祥平

II 脱炭素先行地域（第 5 回）紹介特集

「脱炭素先行地域（第 5 回）」紹介特集にあたって

中村 元紀（総務部会長）

- CASE # ① 「世界一素敵な過疎のまち」の脱炭素への挑戦
－ 「脱炭素×課題」の解決に向けて－
北海道厚沢部町 浅野目 裕太
- CASE # ② 脱炭素・資源循環を通じた真の復興を目指して
陸前高田市 松木 翔
- CASE # ③ 釜石版サステナブルツーリズムがつなぐ脱炭素プロジェクト
釜石市 山崎 森敬
- CASE # ④ 6 町の地域連携で人材や資金を呼び込む！
－ 中山間地域一体の脱炭素・資源循環プロジェクト－
三重県度会町 川島 大嗣
- CASE # ⑤ 次世代のための学園都市型 C N
－ 住みたい、働きたい、学びたいまち 東広島市－
東広島市 永久 丈洋
- CASE # ⑥ 地域経済のエコロジカルな循環による海峡（環境）都市づくり
下関市 山本 倫史
- CASE # ⑦ 系統混雑エリアへ再エネ導入をさらに進める「地域アグリゲータ」モデル
五島市 村井 靖孝

III 理事会及び部会報告

IV イベント報告

V 研究室等紹介

- Vol. 27 30 周年を迎えた日本初の自然環境系専門学校
－ 現場に強い真のフィールドワーカーを育てる－
東京環境工科専門学校 校長 笹岡 達男

VI 会員便り

- Vol. 60 水インフラを核として、まちのリノベーションに取り組む
西澤 政彦 株式会社 N J S
久田 友和 株式会社 N J S
竹村 大河 株式会社 N J S
- Vol. 61 小冊子「防災・減災のススメ」
蚊爪 康典 応用地質株式会社
- Vol. 62 建設技術研究所、C T I グループのサステナブルチャレンジ
～ 2050 カーボンニュートラルの実現へ～
林 正樹 株式会社建設技術研究所
- Vol. 63 ベトナムのごみ事情
桑原 岳人 株式会社環境管理センター

VII 地域発信

- Vol. 47 岐阜県西美濃エリア 「水の都大垣」 「歴史と交通の要所」
小寺 誠 ナチュラルコンサルタント株式会社
- Vol. 48 地元高知の好きなもの色々
筒井 僚子 株式会社四電技術コンサルタント
- Vol. 49 赤べこと、美味しいもの、ふくしま
生沼 欣子 応用地質株式会社

巻末資料

令和5年度受注高調査の結果について

感謝状

第15回ニチバン巻心ECOプロジェクト

一般社団法人 持続可能社会推進コンサルタント協会 殿

For its active participation and voluntary involvement in the implementation of Nichiban Recycle Project wherein proceeds will be utilized in the rehabilitation of mangrove areas in Negros Occidental through the effort of IKAW-AKO Japan Philippines Partnership for Environmental Protection. This is our token of appreciation for your untiring effort in environmental conservation and international cooperation.

あなたは、ニチバン株式会社主催の巻心ECOプロジェクト「テープの巻心を集めて緑の地球を守ろう!」に参加されました。その収益は、環境NGO「イカオ・アコ」を通じて、フィリピン西ネグロス州のマングローブの植林に役立てられます。皆さまの環境保全と国際協力へのご理解とご尽力をここに表し、感謝状を贈ります。

Eugenio Jose "Bong" Lacson
GOVERNOR of Negros Occidental, Philippines
フィリピン 西ネグロス州知事 コヘニオ ホセ ボン ラクソン

環境NGO「イカオ・アコ」代表 後藤順久

この度は、第15回ニチバン巻心ECOプロジェクト「テープの巻心を集めて緑の地球を守ろう!」にご参加いただき、誠にありがとうございました。皆さまのご協力により集められた数多くの巻心のおかげで、ダンボールへの再生、フィリピンでのマングローブの植林、そして国内での植林という形で、地球環境保護活動の一端を担うことができました。皆さまのご協力に対し本状を送り深く感謝の意を表します。

ニチバン株式会社 代表取締役社長 高津敏明
2025年2月



制作: ケンタさん
作品名: みんなで地球の未来をつくらうよ!

Paralym Art®

パラリンアートは、障がい者のアート事業を支援する団体です。



